



一般公募演題

経済的問題を抱える患者へのMSW支援機能と地域連携によるアプローチの検証

京都大学大学院人間環境学研究科共生人間学専攻博士後期課程 2 年 /
医療法人青洲会 まちかど よろず相談所長 (兼) MSW

清家 理

【スライド -1】

昨今の厳しい経済情勢の中、年金問題、医療費削減等々、厚生労働省を中心に医療保健福祉の財源とサービスに関する問題解消のための政策実現が言われつつも、混沌としている状況です。皆様の現場でも、例えば未収金問題を抱えておられませんでしょうか。これは大きな損失です。でも患者さんを見捨てるわけにもいかず、さてどうするか。今日はそんな解決の糸口になるお話をさせていただきます。

【スライド -2】

元来、医療領域の経済的問題の支援といえば、医療ソーシャルワーカーと言われてきました。現に、昨年厚生労働省で出された「医療機関の未収金問題に関する検討会報告書」では、病院側の取り組みの一つとして関係制度の周知、支援等の紹介などが行えるよう MSW を配置するなど、患者に対する相談体制を整備することが挙げられているほどです。では、一口に相談といっても、MSW に何ができるのでしょうか。

今回は、経済的問題の内容、経済的問題に対する MSW の支援内容の明確化、これが研究目的です。

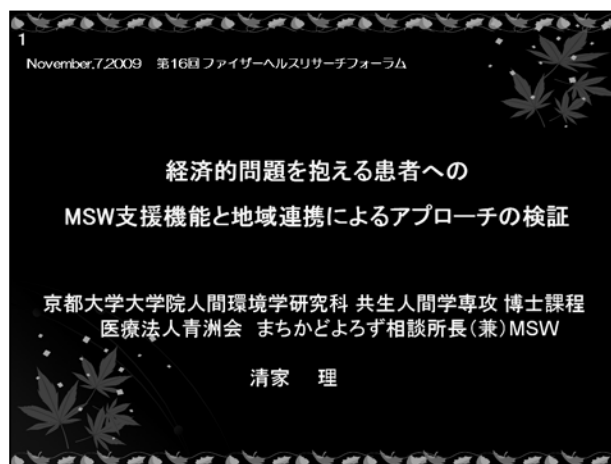
【スライド -3】

研究対象は、2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日の間に、兵庫県尼崎市内の在宅医療を中心に行っている C 医療法人にて、MSW が経済的問題に対する支援を実施した 92 ケースです。

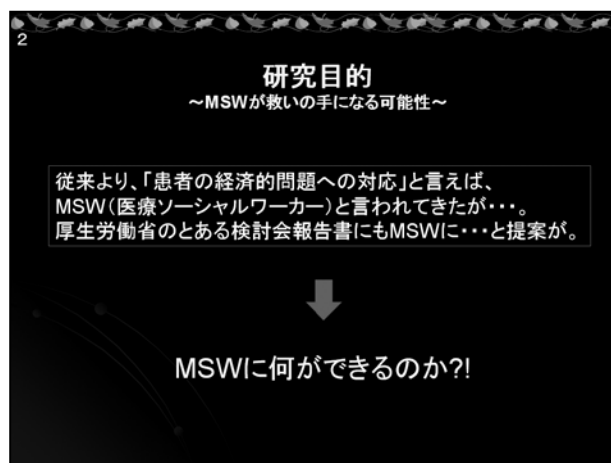
主なデータは、患者や家族のニーズ、MSW の支援内容です。

そして、これらのデータは、

スライド-1



スライド-2



MSW やケアマネジャーのケース記録、カルテから抽出し、統計解析を実施しました。

【スライド -4】

本日は時間の都合上、4つのデータを説明します。MSW の支援過程のどこを示すデータか示しました。

データ 1 が相談を受けた際の内容、データ 2 が受けた相談の内容を明確化したもの、データ 3、データ 4 が、問題解決にむけた院内院外スタッフ、患者や家族に対する MSW のアプローチ先や、その内容です。

【スライド -5】

まず、MSW に相談依頼があった時点での患者・家族の主訴です。

全部で 11 項目でしたが、上位 5 項目を挙げ、内容別に整理しました。上の 2 つが直接的に経済的問題につながるもの。下の 3 つがダイレクトに経済的な問題につながらないものでした。上の 2 つ、下の 3 つはほぼ 30 % 以上で、同じ割合を占めました。

【スライド -6】

先ほどの主訴から面談を通じて明確になった問題を 5 つに分類しました。そのうち、丸印で示した、行政・社会制度関係、心理・精神的負担感で約 50 % を占めました。

【スライド -7】

先ほどのデータで約 50 % 以上を占めた問題の詳細です。

まず、行政・社会制度関係ですが、経済的補助の制度内容や申請方法が分からない、

スライド-3

3 研究方法

研究期間: 2008.4.1 ~ 2009.3.31

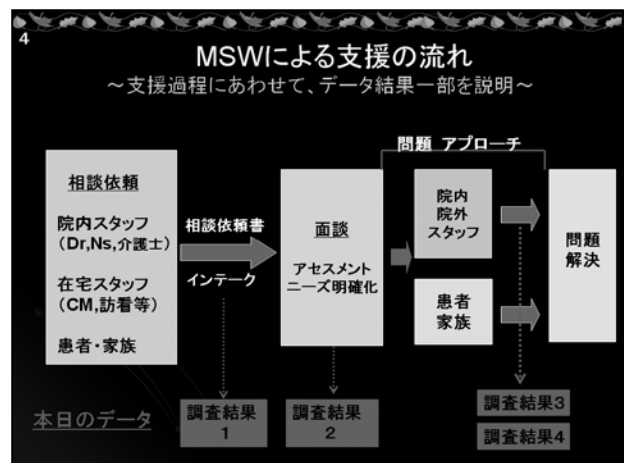
研究対象: C医療法人(有床診療所・在宅医療／兵庫県尼崎市)で MSW が経済的問題に対する支援を実施した 92 ケース

主たるデータ: 患者、家族の主訴・MSW の支援内容

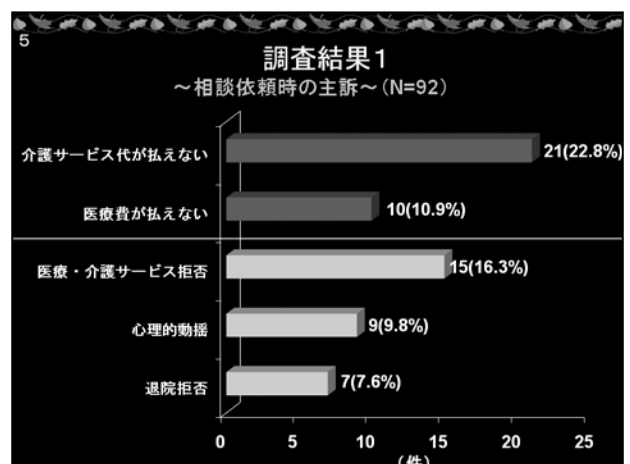
データ抽出先: 診療カルテ・MSW ケース記録・CM ケース記録

分析方法: 統計解析

スライド-4



スライド-5



生活保護など受給相談に行ったが却下された、介護保険などの保険料未納のためサービス利用費にペナルティーが与えられる、等が該当します。

次に心理・精神的負担感ですが、経済的に大変な状況であることを他人に話して馬鹿にされたくない、経済的なことを相談できる人がいない、等が該当します。

【スライド -8】

明確になった問題解決のために、院内、院外で連携を図った専門職がいる機関ののべ件数を示したものが上の4つで、合わせて642件です。患者、家族に対するアプローチは下の2件で、のべ件数が131件でした。

これを点線ラインによって、外に向けてのアプローチと患者・家族など問題の当事者である内に向けてのアプローチの2つに区分しました。上の4つの外に向けてのアプローチのうち上3つは院外機関への連携です。この、いわば地域連携を図ったのべ件数が329件を占め、その中で、行政機関の割合が72%を占めました。

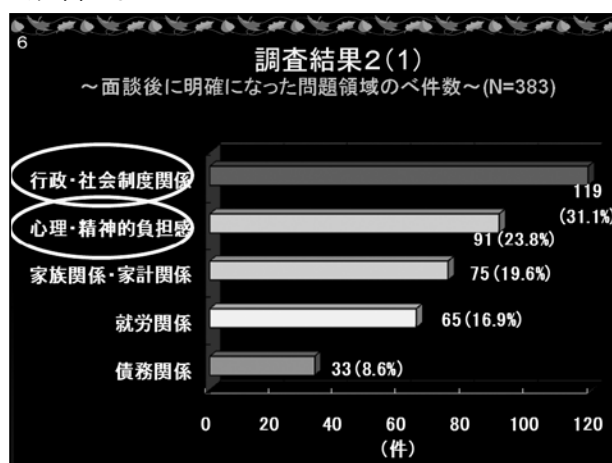
点線でくくった部分①、②について、次からの2枚のスライドで、具体的にMSWが行った支援内容とのべ件数の上位5つを示します。

【スライド -9】

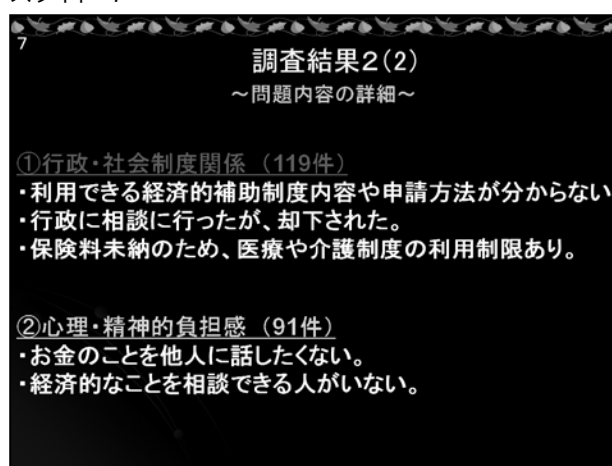
外に向けてのアプローチで地域連携を図った機関ののべ件数329件に対し、MSWが実施した支援項目は56項目、その実施総のべ件数は520件でした。スライドはそのうちの上位6項目です。

上から4つまでの、医療費や保険料の未納分の支払いに関する窓口相談、医療費に関

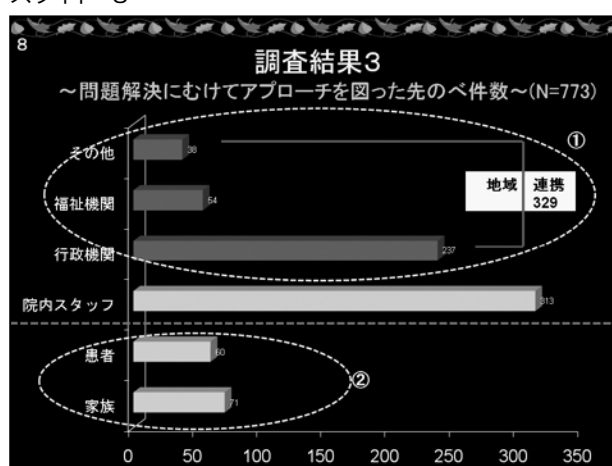
スライド-6



スライド-7



スライド-8



する補助制度や公的手当の申請について、患者・家族との同行や相談に同席など、患者や家族の代弁をしたり問題解決のための土俵に当事者を乗せる役割が、最も多くの割合を占めました。

【スライド -10】

一方、内に向けてのアプローチです。問題の当事者へのアプローチを図ったのべ件数 131 件に対し、MSW が実施した支援項目は 27 項目、その実施総のべ件数は 627 件でした。スライドはそのうちの上位 6 項目です。

上から 4 つの、医療費の補助制度や公的手当、介護保険や障害福祉サービスなどの介護支援、生活保護などの制度やサービス内容、利用のための申請方法についての説明など、問題解決のベースとなる情報提供や知識を与える教育的役割が最も多くを占めました。

【スライド -11】

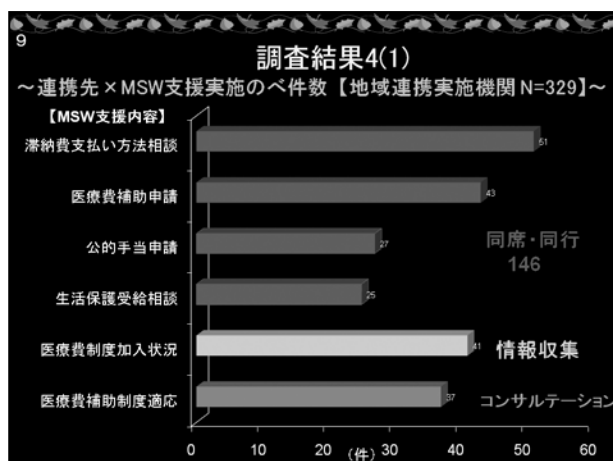
本日説明した 4 つのデータのまとめです。

まず 1 点目。経済的問題の内容は、最初から金銭問題につながる経済的問題が明確になっていませんでした。特に、行政・社会制度関係の問題領域では、経済的補助制度の申請方法や内容に関する情報不足、保険料未納によるサービス利用制限など、制度やサービス利用に関する問題点が表立っていました。

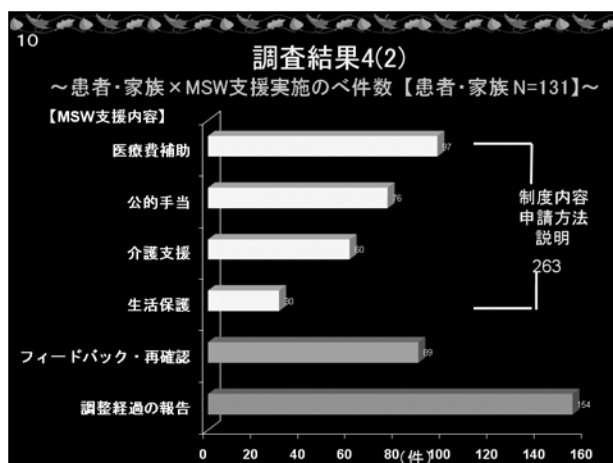
次に 2 点目。経済的問題解決に向けた MSW の支援の方向性と支援内容です。まず支援の方向性は、院内・院外の外界、問題の当事者である患者・家族の内界の 2 つでした。

外界へのアプローチの中で院外への働きかけは地域連携ですが、ここでは、医療費や

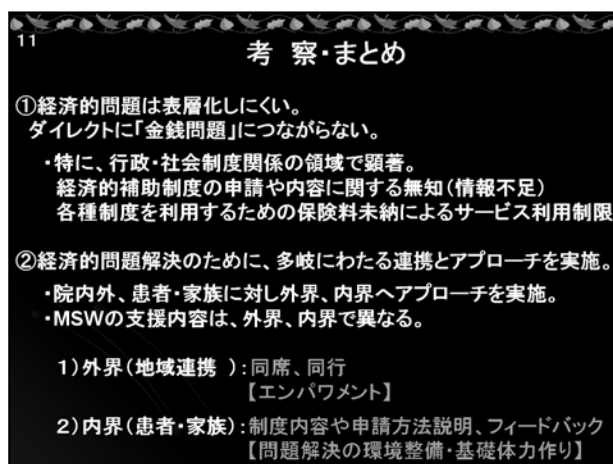
スライド-9



スライド-10



スライド-11



介護支援など、行政や関係機関の窓口への同行、相談への同席等、患者や家族の代弁、問題解決のための土俵に当事者を乗せる役割、広く言えば、エンパワメント的役割を果たしていました。

一方、問題の当事者、内界へのアプローチの中で、医療費や公的手当などの制度内容や申請方法の説明など、問題解決の土台となる情報提供、知識を与える教育的役割、言わば、問題解決の環境整備、基礎体力作りの役割を果たしていました。

【スライド -12, 13】

最後に今後の課題です。

これから社会情勢は、すぐに上向きになることは難しいと思います。生きている限り経済的な事象はずっとついて回ります。経済情勢が厳しい中で、社会資源のための財源も厳しい状況では、今あるものを見直す、マイナスをゼロ地点に戻す作業も必要です。そのため、今回のような研究を継続する必要性があると思います。

今後の研究の切り口は、2点あります。

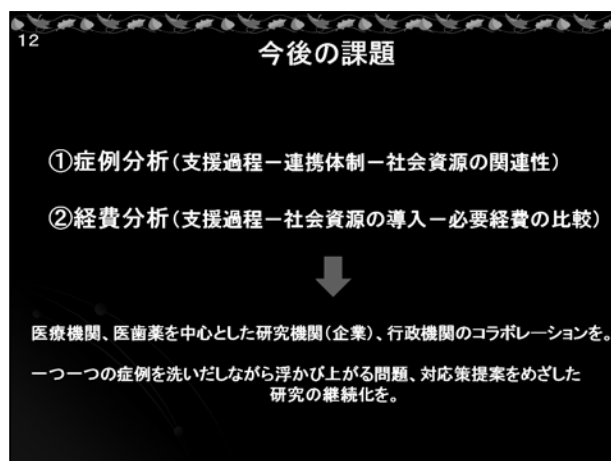
1点目。MSWの支援を導入して、その症例がどのように変遷していくか、連携体制と導入したインフォーマルサポート、フォーマルサポート等、社会資源との関連性に焦点をおいた症例分析です。

2点目。MSWの支援により社会資源を導入して、その前後で必要経費がどう変化したかに焦点をおいた経費分析です。

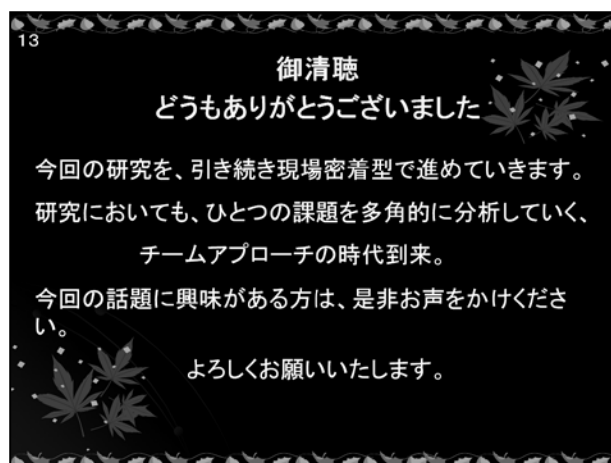
そして、これらの研究を医療機関、医歯薬を中心とした企業や研究機関、行政機関と協働していく必要性があり、この研究でも多角的アプローチが必要だと考えております。

以上で発表を終わりますが、若輩者に発表の機会を与えてくださいました財団の皆様、先生方に深く感謝申し上げます。

スライド-12



スライド-13



質疑応答

会場： スライドに出てきた仕事の内容というのは、ほとんどの病院や診療所の MSW が漠然とやっている仕事だと思うのです。それを明確に区別して分析したところ、この研究の意義があると思うのですが、お訊ねしたいのは、経済的問題以外の MSW の仕事は、この表で何%くらいになるのですか？ そもそもこの表を作ったときに、対象はどうやって選んだのでしょうか？ つまり、滞納した患者だけ選んだのか、一般の相談の中で「いや、私困るんですよ」というような患者を全部入れているのか？ どのようにあの数が出てきたのでしょうか。

清家： 今日の発表の流れの中では詳しく書けなかったのですが、ソーシャルワーカーに相談が来るときに、医療スタッフや介護関係のスタッフから相談依頼書が来たり、ダイレクトに患者さんや家族から相談依頼が来ます。そこでは主な問題点として、依頼書の経済的問題というところに先にチェックが入っていたり、介護問題にチェックが入っていたりします。今回は、特に最終的に支援をしていた中で、生きていくためのお金に問題に大きく片寄っているということが明確になったものを抽出させていただきました。

会場： そうしますと、全体の相談の 90%が経済的問題と考えていいですか。

清家： そうですね、受けた相談の年の推移を見てきているのですが、今までは転院だけとか、在宅につなぐだけ、というものが多かったのですが、やはりこの経済情勢を象徴してだと思うのですが、やはり 8 割から 9 割が「生きていくのに困る」とか「帰る家がない」とかというようになってきています。

座長： MSW はなかなか資格化もされてなくて、いろいろ課題も多いところですが、大きな役割を期待したいところです。また今後の研究を期待したいと思います。どうも有り難うございました。